

第7課 世代を超えた交流

行動目標

異なる背景を持つ人々との交流を通して自分の視野を広げることができる。

チャレンジするタスク&学習項目

タスク	できること	学習項目
1 見つけた!	新しい活動に参加する前に参加者の体験談を読んで、活動の内容や様子についての情報を得ることができる。	1 ~どころではない/~どころじゃない 2 ~たところ 3 ~ことになった 4 ~限り/~限りは 活動に参加する前とあとでの気持ちの変化を表すときの表現
2 こんなときどうする?	相手の都合や好みを考えながら、自分の興味を持って参加するイベントに誘うことができる。	1 ~かなと思って 2 ~にしては 3 ~につき 相手の都合や好みを考えて丁寧に誘うときの表現
3 耳でキャッチ	世代や性別で違いがある話し方を聞いて理解することができる。	1 ~もんだ/~ものだ 2 ~ながら(も) 3 ~につけ(て) 4 ~さえ 自分や相手を呼ぶときのことば
4 伝えてみよう	出会った人々との交流について話すことができる。	1 ~に反し(て)/~に反する/~に反した 2 ~うちに 3 ~からして 交流の体験を述べるときに使うことば・表現
知って楽しむ	いつから友達言葉にしたらいい?	

■ 学習者への問いかけ例

話してみよう

- ・(4つの絵に共通している男性のイラストを示しながら) この男の人は何をしていますか。どんな人と出会っていますか。
- ・「世代」はどんな意味だと思いますか。「世代を超える」というのはどういうことだと思いますか。
- ・違う世代の日本人と話したことがありますか。どこで、どんな人と、何について話しましたか。国ではどうですか。

1 見つけた!

タスクをする前に

- ▷ ボランティア活動に参加したことがありますか。
- ▷ 新しい活動に参加するとき、どんな情報があるといいと思いますか。

チャレンジした後で

- ・イリアさんはどんなボランティアに参加しましたか。
- ・イリアさんはどうしてボランティア活動に参加しましたか。
- ・イリアさんは日本に来たばかりのころはどうでしたか。
- ・イリアさんは参加する前と参加した後では、どんな気持ちの変化がありましたか。
- ・イリアさんはこのボランティアに参加してどんなことにびっくりしましたか。
- ・一緒にボランティアをした人はどんな人でしたか。
- ・イリアさんは一緒にボランティアをした人のことをどう思いましたか。
- ・イリアさんが次回もこのボランティアに参加したいと思ったのはなぜですか。

学習項目へ向けて

1. ～どころではない／～どころじゃない

イリアさんは日本へ来たばかりの時に、すぐボランティアをしようと考えましたか。それはどうしてですか。

2. ～たところ

イリアさんはボランティアに参加する前に何が心配でしたか。実際に参加してみてどうでしたか。

3. ～ことになった

この掃除ボランティアは1人でしますか。

イリアさんは一緒にする人を自分で決めることができましたか。

4. ～限り／～限りは

年配の女性はいつまでこのボランティアを続けたいと言っていますか。

>>>活動に参加する前とあとでの気持ちの変化を表すときの表現

活動に参加する前に思っていたことと実際に参加してから感じたことが同じだったとき、違ったとき、どんな言い方があるでしょうか。

2 こんなときどうする？

タスクをする前に

- ▷あまりよく知らない人や自分より年上の人を誘いたいとき、どうしますか。
- ▶AさんはBさんと親しいですか。
- ▶このフリーマーケットについてどんなことがわかりますか。

チャレンジをした後でサンプルを聞いたり見たりしながら

- ・アンナさんは、最初、どんなふうに話し始めましたか。すぐに鈴木さんを誘っていますか。
- ・アンナさんは何と言って鈴木さんを誘っていますか。「来てもらえませんか」という言い方とどう違うと思いますか。
- ・「中古品にしてはいい物がある」の意味は何だと思いますか。
- ・300円のTシャツを1枚買うと、いくら寄付ができますか。
- ・鈴木さんはアンナさんが誘ったフリーマーケットに興味を持ちましたか。

学習項目へ向けて

1. ～かなと思って

- アンナさんは、鈴木さんを誘うときどんな言い方をしていましたか。
- アンナさんはどんな気持ちで鈴木さんを誘っていると思いますか。

2. ～にしては

- 「中古品」と聞いたとき、その品物はどうだと思いますか。このフリーマーケットの中古品はどうですか。

3. ～につき

- 売り上げの一部が寄付されると言っていますが、例えばどのくらいだと言っていますか。

>>>相手の都合や好みを考えて丁寧に誘うときの表現

- 丁寧に誘うとき、どんなふうに話し始めたらいいでしょうか。また、相手の都合を考えて誘うときにはどんな言い方があるでしょうか。

3 耳でキャッチ

タスクをする前に

- ▷日本語では年齢によって話し方に違いがあると思いますか。皆さんの国では、世代の違いで話し方の違いがありますか。
- ▶(イラストを見ながら) ここにはどんな人がいますか。

チャレンジをした後で

- ・それぞれの人の話し方に違いがありましたか。どんな感じがしましたか。
- ・大野さんは何歳くらいだと思いますか。どうしてそう思いましたか。
- ・大野さんは何に驚いていますか。
- ・大野さんは会社を辞めてから何をしていましたか。

- ・「うちのかみさん」は誰のことだと思いますか。
- ・大野さんはどうしてこのイベントに参加しようと思ったのですか。
- ・大野さんは何が覚えられないと言っていますか。
- ・高校生が言っている「そうっす」というのは何のことだと思いますか。
- ・高校生が「自分」と言っているのは誰のことですか。
- ・大野さんは高校生やナタポンさんに何が言いたいのでしょうか。

学習項目へ向けて

1. ～もんだ／～ものだ

大野さんがマリヤムさんの返事に驚いたとき、どんな言い方をしていますか。

2. ～ながら（も）

大野さんは会社を辞めてから、どんなことを考えていましたか。それはすぐできましたか。

3. ～につけ（て）

大野さんはどんなとき、奥さんがうらやましくなりましたか。

4. ～さえ

どうして大野さんは人の名前が覚えられないと言っていますか。

「さえ」があるのとないのとではどう違うと思いますか。

>>>自分や相手を呼ぶときのことば

日本語では自分や相手のことを呼ぶとき、どんな言葉を使っていますか。

4 伝えてみよう

タスクをする前に

▷日本でどんな人と出会いましたか。

▷今までに思い出に残る出会いや交流がありましたか。

チャレンジした後でサンプルを聞いたり見たりしながら

- ・この人はいつ、どこへ行きましたか。
- ・この人は夏休みの電車をどう予想していましたか。実際はどうでしたか。
- ・ホストファミリーと最初のころ、うまく話せましたか。
- ・ホストファミリーとどんなことをして親しくなりましたか。
- ・おばあさんはどんな人でしたか。
- ・帰ってからどんなことがありましたか。
- ・この人はホームステイに参加してどうだったと言っていますか。それはなぜですか。

学習項目へ向けて

1. ～に反し（て）／～に反する／～に反した

予想どおり、電車は混んでいましたか。

2. ～うちに

ホストファミリーとだんだん親しくなったと言っていますが、どんなふうに親しくなりましたか。

3. ～からして

このおばあさんが元気なのはどうしてわかりますか。

若々しいのは歩き方だけですか。

>>>交流の体験を述べるときに使うことば・表現

いろいろな人と交流するとき、どんな体験をしますか。そのとき、どんな言葉で感想を言いますか。

■ 留意点

話してみよう

一人の人が様々な場面で世代の違う人達と交流していることに気づいてもらうのが狙いです。ここでは学習者が普段、どんな人と交流があるかについて簡単に話してもらい、世代を超えた交流をすることについて考えるきっかけ作りができればいいと思います。タイトルの「世代」はこの課の新出語彙です。

チャレンジ！

1

ここは交流を広げるためにボランティア活動などに参加したいけれども、少し不安があるので、参加した人の体験談をインターネットで調べているという状況です。この留学生の気持ちの変化を読み取ってもらいます。

■の質問では、学習者に簡単に話してもらってください。タスク4の「伝えてみよう」でたくさん話すチャンスがあります。

2

普段、挨拶はするけれど、まだあまり親しくないという人を思い切って誘ってみましょうと呼びかけます。また、事前にどんな順に話すといいか、言葉づかいはどんなことに注意して誘ったらいいかなどもみんなで考えてもらうといいでしょう。

3

地域のイベントにスタッフとして参加し、ミーティングに参加しているという状況です。世代によって話し方が違うことに気づいてもらえるように促してください。長い会話なので、クラスによっては、2回目は途中で止めながら聞いてもらうといいかもしれません。

4

これまでの交流経験についてまとめて話してもらうタスクです。1の「見つけた！」の■の質問でボランティアに参加したことがあると答えた学習者がいれば、その経験を話してもらうといいかもしれません。その際、1のタスクにある気持ちの変化の表現や構成を思い出すように学習者に促すと、学習者も話しやすいでしょう。

本文2行目の「～んじゃないかと思って」の形は確認が必要な表現です。3課で「～んじゃない？」は学習しています。

使ってみよう

1

「1. ～どころではない／～どころじゃない」は会話では「～どころじゃない」の形でよく使われるという点を押さえて口頭練習をします。

「3. ことになった」は初中級9課「～ことになっている」(規則・予定)、初中級12課「～ことにする」(意志)との違いを確認してから練習するといいかもかもしれません。「4. ～限り／～限りは」は「その状態が続いている間」という意味ですが、「限界まで」の意味を表す「～限り／～限りの」は17課にあります。

「気持ちの変化を表すときの表現」では、「～する前は～でしたが、～したところ、思ったより～でした」と複文で話す練習もできます。

2

「1. ～かなと思って」を使うと遠慮しながら上手に誘えるようになると思います。実際の場面を想定して口頭練習をします。その際、例文②の「～かなと思って電話したんだ」のように、後ろにその行為そのものを表す言葉を続けることもできることを紹介します。口頭練習では、話し始めの「あのう」や、驚きや喜びを表す「わあ」などのフィラーにも注目してもらい、より自然な会話ができるように促します。

「相手の都合や好みを考えて丁寧に誘う時の表現」では、「1. ～かなと思って」の例文を使って丁寧な言い換え練習もできます。

3

「1. ～もんだ／～ものだ」は5課に「当然・助言」、16課で「回想」があります。「2. ～ながら(も)」は「テレビを見ながらご飯を食べます」(初中級11課)との違いを確認します。

「自分や相手を呼ぶときのことば」で取り上げているものは一部に過ぎません。学習者のレベルに合わせて他のものも提示してもいいかもしれません。

4

「2. ～うちに」は、2課で「変わらない間に何かをする」という意味で提出されています。ここでは、「その間に変化が起きる」という意味なので、学習者に違いを確認します。

「交流の体験を述べるときに使うことば・表現」では、交流ではどんなことをするのか、どんな体験があるのかについて考えてもらい、「ことば・表現」を使って文章を作る練習をすると、「やってみよう」で生かせると思います。

やってみよう

1

はじめに、スポーツ活動に参加したことがあるかどうか、また、参加したいときにどんな情報がほしい

かなどについて話してもらいます。ここでは、スポーツで交流したいと思って、インターネットのブログを見ているという状況を共有します。参加する前と参加した後での気持ちの変化を表すときの表現に注目しながら読みます。その後で、この人はどんなことに驚いているか、参加してどう思ったかなどの質問を教師からしてください。文中の「～からか」と「～ような気がする」は新しい表現です。

2

ここでは誘うイベントが変わります。学園祭コンサートの目的などを確認してから始めるようにしましょう。

3

この「やってみよう」で聞く会話はチャレンジ3の続きになります。スクリプトは巻末資料P.281にあります。大野さんの話し方で「～もんだ」「～さえ」など、また、高校生の近藤君の「いいっすよ」「で、そちらは～」「6コ上っすね」などに注目してもらおうといいでしょう。「からっきし」など学習者にとっては初めて聞くような言葉もありますが、そこにとらわれず、大体の意味を推測するように、学習者に促してください。「大野さんは何に驚いていますか」「大野さんは絵が上手ですか」「近藤君の名前は何かですか」「ナタポンさんにどう呼んでほしいと言っていますか」などの質問をし、聞き取れたかどうか確認します。

4

人との交流についてももう一度話します。何を話したらいいか困っている学習者には、自分の周りで言葉を交わす人がいないかどうか問いかけてみてください。アルバイト先の人や店によく来るお客さん、よく行くスーパーで会うおばさんのことなどを話してくれた学習者もいます。日本人でなくても、外国人の同僚などでもいいと思います。また、日本に来てからでなくても自分の国で出会った人との交流でもいいでしょう。学習者同士で構成はどうか、気持ちの変化は上手に話せているかなどに注意してもらい、感想を言い合ってもらおうといいでしょう。友達の交流体験に関心を持って、自分も参加したいと新たな交流が生まれるかもしれません。

知って楽しむ

そろそろ日本人の友達ができたり、交流を始めていたりする学習者も多いことでしょう。どんな言葉で話しているか、あるいは、話し方で困ったことはないかなどを聞いてみてください。そして、丁寧な言葉づかいから友達言葉に変えるタイミングはいつだと思うかなど、この文章を読む動機づけをしてから読んでもらおうといいでしょう。

実は、このタイトルの言葉は実際にある学習者に聞かれたものです。「先生、いつから友達言葉にしたらいいいですか。友達ができたのですが、相手は友達言葉で話しますが、私はいつ変えればいいかわかりません」。丁寧形から学んだ学習者にとって、実生活での話し方を変えるタイミングはとても大切な問題であることに気がつきました。本文では、実際に日本人の大学生に聞いたものをまとめてあります。学習者それぞれの体験などを話してもらおうと教室での話が盛り上がると思います。

本文の中に「～ような／～ように」が使われていますが、これは9課の文法項目です。ここでは、意味がわかればよいものとします。

できる！

ここでは、学習者が実際に世代の違う人と交流する体験をします。まず、教室活動としてインターネットなどでどんなボランティアやイベント活動があるかを調べます。地域の情報サイトや、市役所などのホームページを見るといいでしょう。また、実際に市役所へ出かけて行って聞いてみるでもいいかもしれません。そして、行ってみたいところへグループなどで参加します。実際に参加し、交流してみて感じたことや考えたことを教室で発表してもらい、共有します。

また、申し込みから参加まで全て学習者が自分たちで行えるとさらにいいと思います。